

製品名: Flt-1 (リン酸化Tyr1333) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04684**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:100-1:300,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	151kDa

抗原情報

遺伝子名	FLT1 FLT1; FLT; FRT; VEGFR1; Vascular endothelial growth factor receptor 1; VEGFR-1; Fms-like
別名	tyrosine kinase 1; FLT-1; Tyrosine-protein kinase FRT; Tyrosine-protein kinase receptor FLT; FLT; Vascular permeability factor receptor
遺伝子 ID	2321.0
SwissProt ID	P17948
免疫原	抗血清は、ヒト VEGFR1 の Tyr1333 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1289-1338

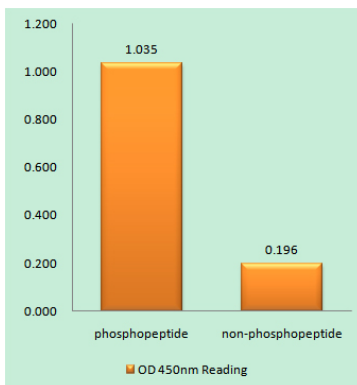
背景

この遺伝子は、血管内皮増殖因子受容体 (VEGFR) ファミリーのメンバーをコードします。VEGFR ファミリーのメンバーは、7つの免疫グロブリン (Ig) 様ドメイン、膜貫通セグメント、および細胞質ドメイン内のチロシンキナーゼ (TK) ドメインを含む細胞外リガンド結合領域を含む受容体チロシンキナーゼ (RTK) です。このタンパク質は VEGFR-A、VEGFR-B、および胎盤増殖因子に結合し、血管新生および脈管形成において重要な役割を果たします。この受容体は、血管内皮細胞、胎盤栄養膜細胞、および末梢血単球で発現しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションがあります。アイソフォームには、全長の膜貫通受容体アイソフォームと、短縮された可溶性アイソフォームがあります。可溶性アイソフォームは、子癩前症の発症と関連している。[RefSeq 提供、2009年5月]。代替製品: 追加のアイソフォームが存在すると思われる。触媒活性: $ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸$ 。機能: VEGF、VEGF β 、および PGF の受容体。チロシンタンパク質キナーゼ活性を有する。VEGF キナーゼリガンド/受容体シグナル伝達系は、血管の発達と血管透過性の調節に重要な役割を果たしている。アイソフォーム sFlt1 は、血管新生において阻害的な役割を果たす可能性がある。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。CSF-1/PDGF 受容体サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 7つの Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含む。サブユニット: PLC- γ 、PTPN11、GRB2、CRK、NCK1 など、様々なリン酸化チロシン結合タンパク質と *in vitro* で相互作用する。組織特異性: 主に正常肺に発現するが、胎盤、肝臓、腎臓、心臓、脳組織にも発現する。ほとんどの血管内皮細胞に特異的に発現し、末梢血単球にも発現する。腫瘍細胞株には発現しない。アイソフォーム sFlt1 は胎盤で強く発現する。、

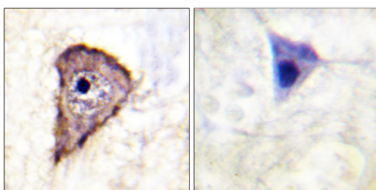
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;エンドサイトーシス;接着斑;

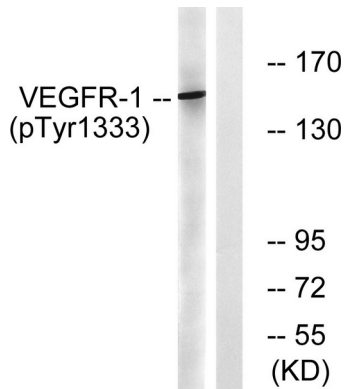
画像データ



VEGFR1 (リン酸化 Tyr1333) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



VEGFR1 (リン酸化 Tyr1333) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



エトポシド 25 μ M で 24 時間処理した K562 細胞のライセートを VEGFR1 (リン酸化 Tyr1333) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。

リン酸化 Flt-1 (Y1333) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

